

子育て支援からJAの新たな仲間づくりへ

～JAみどりの浦谷支店「PIKA PIKAママくらぶ」の活動が目指すもの～

研究員 福田 いずみ

目次

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. はじめに | 3. 活動を通して生まれたもの |
| 2. 「PIKA PIKAママくらぶ」の活動 | 4. 今後の目標・課題 |
| | 5. おわりに |

1. はじめに

第26回JA全国大会で「JA支店を核に、組合員・地域の課題に向き合う協同」の構築が掲げられ、支店を拠点とした協同活動の実践が求められている。その背景のひとつには、JAが抱えている組合員の高齢化の進行や世代交代に伴う組合員数の減少などの組織基盤問題への対応が挙げられる。

現在、そのような問題の解決に向けてJAの支店等を拠点に地域にある課題に向き合い、組合員・地域住民との仲間づくり、絆づくりの強化に向けた様々な取組みが全国各地で実施されている。

本稿では、JA女性部員ならではの視点で農村部が抱える子育ての孤立化¹に着目し、地域の子育て中の母親たちが子連れで来ても安心して学び、交流できる場を提供しているJAみどりの浦谷支店の子育て支援活動を紹介する。本事例を通して地域の子育て世代とJAとの接点強化について考えていきたい。

2. 「PIKA PIKAママくらぶ」の活動

平成22年度から継続実施されている「PIKA PIKAママくらぶ」の活動は、「他の地域から嫁いできたことで知り合いが少なく、孤立しがちな子育て中の農家のお嫁さんたちに子連れで気楽に集ってもらい、JAをよりどころに学び、交流してもらいたい」というJA女性部員の声を実現させたものである。

初年度から2か月に1回のペースで実施されてきた活動の内容は図表1のとおりとなっている。手芸関係の講座は、この活動の中心メンバー（JA女性部員）のひとりが講師の役割を担っているが、その他のプログラムについては、内容に応じて専門家などに講師派遣を依頼している。参加費については、実費として200円～500円を参加者から徴収している。

これまでの実施内容を見ていくと、手芸や料理といった母親の学び・交流とともに、親子が一緒に楽しめる季節の行事も盛り込まれている。これらを企画・運営しているのは、

1 都市部における密室育児による育児の孤立化は、社会問題として取り上げられているが、農村部では、子どもや子育て家庭そのものが急速に少数化し、近所に子育て仲間や子どもの友達がいないという地理的な孤立化が存在する。

(図表 1) PIKA PIKAママくらぶ開催講座内容

| 22 年 度 | |
|--------|--------------------------------|
| 実施月 | 実 施 内 容 |
| 5 月 | 開講式 「手作り絵本の読み聞かせ」「育ててみようミニトマト」 |
| 7 月 | 「石鹸作り」「布絵本作り①」 |
| 8 月 | 「ベビーマッサージ教室」「布絵本作り②」 |
| 10月 | 「手作りデザート教室」「布絵本作り③」 |
| 1 月 | 「米粉スイーツ作り」「布絵本作り④」 |
| 3 月 | 閉講式 「布絵本を完成させよう⑤」 修了ランチパーティー |

| 23 年 度 | |
|--------|------------------------------------|
| 実施月 | 実 施 内 容 |
| 6 月 | 開講式 「米粉を使ったピザ作り」 |
| 8 月 | 七夕飾りづくり |
| 10月 | 手袋人形づくり |
| 12月 | クリスマス会「クリスマス絵本の読み聞かせ」「ケーキデコレーション」 |
| 2 月 | 閉講式 「読み聞かせ・手袋人形の使い方を学ぼう」「ひなまつりランチ」 |

| 24 年 度 | |
|--------|------------------------|
| 実施月 | 実 施 内 容 |
| 5 月 | 開講式 「米粉を使ったアップルパン作り」 |
| 7 月 | 七夕・スイカ割り |
| 9 月 | 「通園バック作り」 |
| 11月 | 「手袋人形の遊び方、絵本の読み聞かせ勉強会」 |
| 12月 | クリスマス会 ケーキデコレーション |
| 2 月 | 閉講式 キャラ弁づくり |

| 25 年 度 | |
|--------|--------------------------------|
| 実施月 | 実 施 内 容 |
| 5 月 | 開講式 「親子でお城山ハイキング」「育ててみようミニトマト」 |
| 7 月 | 「ゲームとリズム遊び」「スイカ割り」 |
| 9 月 | 「米粉クッキング」 |
| 11月 | 「クリスマスのタペストリー作り」 |
| 12月 | 「親子クッキングフェスタへの参加」 |
| 2 月 | 閉講式 ひな祭り飾り巻き寿司 修了ランチパーティー |

出典：JAみどりの『PIKA PIKAママくらぶ』開催講座内容』より筆者作成

涌谷支店のJA女性部のメンバーとJAの担当職員である。

「PIKA PIKAママくらぶ」の実施にあたっては、涌谷支店の2階にある広い会議室に料理や手芸などの講習を行う場所と子どもが遊ぶ場所の各コーナーを設置し、ひとつの空間で親子がお互いの存在を確認し合いながら過ごせるよう配慮されている。こうすることで母親と離れても室内に母親の存在を確認することができ、子どもたちは不安を感じることなく過ごせている(写真1)。

母親が講習を受けている間の子どもたちの保育は、子育て支援に関する講座を受講した

り、過去に幼稚園教諭の経験を持つJA女性部のメンバー等が行っている。この実施形態は、平成22年度の活動当初から続いている「PIKA PIKAママくらぶ」のスタイルである。



(写真 1)

去る2月24日に行われた25年度の閉講式では、「ひな祭りの飾り巻きずしづくり」の講習が行われた。講師は、食育などの関係で以前からつながりのある、地元涌谷町のフードコーディネーターに依頼し、桃の節句に合わせて巻きずしづくりと試食会が行われた(写真2)。



(写真 2)

調理実習には母親とともに、保育担当以外のJA女性部のメンバーも加わり、若い母親たちをサポートしながら一緒に巻きずし作りを学んだ。

試食会では、実習で作った巻きずしにJA女性部のメンバーが手作りした小松菜のムースなども加わり、彩り豊かな料理がテーブルにセッティングされた。そこへ親子、そしてJA女性部のメンバー等が集い、来年度の実施内容などを話しながら、楽しい時間を過ごした(写真3、4)。



(写真3)



(写真4)

3. 活動を通して生まれたもの

活動が始まってから丸4年が経過した「PIKA PIKAママくらぶ」には、初年度から

参加している母親も多い。4年前は第一子を連れてきていた人が、今では第二子を連れて継続的に参加しているケースが見られる。実際、筆者が平成22年度に「PIKA PIKAママくらぶ」の取組みについて調査した際に参加していた母親たちに今回再会することができた。これは、この活動が確実にこの地域に定着してきていることを示しているといえよう。

現在、「PIKA PIKAママくらぶ」に参加している親子は14組。口コミで集まってきたという人がほとんどで、農家・非農家の割合は半々である。それぞれの家庭の状況は違っても、母親たちにとって「PIKA PIKAママくらぶ」の活動は、子どもの成長をお互いによるこび合い、育児などの悩みや苦勞を語り合う場となっている。また、筆者が行った母親たちへのヒアリングによれば、もともとJAとかかわりのある農家のお嫁さんは「JAに行きます」と言うだけで理解してもらえるので、外出時の家族に対する心の負担が軽減されたという。一方、非農家の女性の場合は、初めてJAに足を運ぶきっかけになり、JAというものを知る機会につながっている。

4年間の活動を通して地域の子育て中の母親をサポートし、参加者とJA女性部のメンバー、そしてJAが信頼関係を構築することができた結果、「PIKA PIKAママくらぶ」の活動は今、新たな展開を迎えている。JA女性部のメンバーが「PIKA PIKAママくらぶ」に来ている母親たちに「JA女性部に入らないか」と声をかけたところ、JA女性部の正式なメンバーとして12名が登録したという。

これは、「PIKA PIKAママくらぶ」の活動が子育て支援のみならず、地域の若い世代とJAの接点強化につながったことを示しているといえるのではないだろうか。

4. 今後の目標・課題

現在、「PIKA PIKAママくらぶ」の活動が抱えている目標・課題は、以下のとおりである。

まず目標としては、母親たちが自らの要望を基に計画を立て、母親たちの自主的な活動として運営していけるようにしていきたい、とのことである。将来的にはJA女性部の若い女性メンバーによる一つの活動として完全に独立させ、しっかりと根付かせていくこと、そして、現在JAみどりの涌谷支店のみで実施している「PIKA PIKAママくらぶ」の活動を、他の支店でも実施していきたいとしている。

しかし、人材を確保することが難しく、思ったように広げられないのが現状である。人材の育成が今後の大きな課題である。

5. おわりに

昭和30年代後半からの核家族化と都市化の進行に加え、近年の急速な少子化によって、「子育て家庭の孤立化」と人間関係の希薄化の危機がもたらされている。このような問題に対応すべく、母子を取り巻く環境に関する様々な調査・研究が行われている。原田(2001)²は、新興住宅地に比べ、農林業地域に暮らす母親は話し相手が少なく孤立傾向が高くなっており、そのことが乳幼児期の子どもの言語・社会性などの発達にまで及ぶことを指摘している。このことから農村地域における子育ての孤立化の解消につながる支援の重要性をうかがい知ることができる。

今回ご紹介した「PIKA PIKAママくらぶ」の取組みは、地域の中に実在する子育ての孤立化の問題に向き合い、子育て支援を入口として地域の若い母親たちの交流の場を提供し、

継続的にサポートを続けたことが、JAに新たな人的つながりを生んだ好事例といえよう。

そして、この取組みの最大の特徴は、行政による一般的な子育て支援が、未就学児を持つ親子に限定されることが多いのに対し、「PIKA PIKAママくらぶ」にはそういった制限を設けず、地域の若い母親の交流場所として位置づけているところである。よって子どもの就学をきっかけに「PIKA PIKAママくらぶ」を卒業する必要はない。この点は、(一方的に支援だけを提供し、時期が来たら終了ということではなく)子育て支援をきっかけに集まってきた地域の若い母親たちにJAを知ってもらい、活動を通してつながりを持ち続けていくための重要なポイントであると考えられる。

筆者としては、今後も「PIKA PIKAママくらぶ」に関する調査・研究を続け、この活動がJAの新たな仲間づくりにつながった理由を明らかにするとともに、地域の次代を担う世代へのJAとしてのアプローチ方法を探っていきたいと考えている。

参考文献

- ・原田正文『子育ての変貌と次世代育成支援—兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防—』2006 名古屋大学出版会
- ・森田明美『よくわかる女性と福祉』2011 ミネルヴァ書房
- ・石田正昭『農協は地域に何ができるか』2012 農文協

2 服部祥子・原田正文 著『乳幼児の心身発達と環境—大阪レポートと精神医学的視点—』2001 名古屋大学出版会 P150～P152